

学習指導資料

「学習評価の事例集」(宮城県版)

高等学校

第2編(各教科)

公民

令和4年1月

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

<各事例概要一覧と事例>

(P. 2~17)

事例1 キーワード 「思考・判断・表現」の評価, 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

科目 公共

単元 公共の扉をひらこう

(内容のまとめり A「公共の扉」)

「公共」の内容A「公共の扉」について、学習指導と評価の計画から総括までの具体例をもとに説明する。本事例では、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」について、評価の場面や方法の一例を示した。学習指導を計画する際に、思考実験や概念的な枠組みを用いて考察する活動に活用できる素材の例や評価に活用できるワークシートの例を提示している。

(P. 18~30)

事例2 キーワード 「知識・技能」の評価, 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

科目 公共

単元 主として政治に関わる事項

(内容のまとめり B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」)

「公共」のB「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」では、13の事柄や課題について、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設け、これを追究したり解決したりする学習を展開することとしている。本事例では、「主として政治に関わる事項」に示されている事柄や課題を組み合わせた単元の指導と評価の計画を示し、その中で「知識・技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」について、評価の場面や規準について説明する。評価に活用できるワークシートの例も提示している。

(P. 31~39)

事例3 キーワード 探究活動に関する指導と評価

科目 公共

単元 持続可能な社会づくりの主体となる私たち

(内容のまとめり C「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」)

「公共」のC「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」では、「課題を見だし、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、現代の諸課題を探究する活動」を展開する。本事例では単元を貫く問いを生徒が個人で設定する事例と教師が地域社会に絞って提示する事例を提示し、その中で「主体的に学習に取り組む態度」について評価の場面や方法などを説明する。評価に活用できるワークシートの例も提示している。

公民科 事例 1 (公共)

キーワード 「思考・判断・表現」の評価, 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単元名

公共の扉をひらこう

内容のまとめ

A 公共の扉

1 単元の目標

公共的な空間と人間との関わり, 個人の尊厳と自主・自律, 人間と社会の多様性と共通性, 幸福, 正義, 公正などに着目して, 現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求する活動や課題を追究したり解決したりする活動を通して, 次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・自らの体験などを振り返ることを通して, 自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。
- ・人間は, 個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに, 対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること, 伝統や文化, 先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して, 自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。
- ・自分自身が, 自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが, 自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解する。
- ・選択・判断の手掛かりとして, 行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や, 行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。
- ・現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け, 考え方を活用することを通して, 行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが, よりよく生きていく上で重要であることについて理解する。
- ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から, よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し, 読み取る。
- ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して, 人間の尊厳と平等, 協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが, 公共的な空間を作る上で必要であることについて理解する。
- ・人間の尊厳と平等, 個人の尊重, 民主主義, 法の支配, 自由・権利と責任・義務など, 公共的な空間における基本的原理について理解する。
- ・公共的な空間と人間との関わり, 個人の尊厳と自主・自律, 人間と社会の多様性と共通性などに着目して, 社会に参画する自立した主体とは, 孤立して生きるのではなく, 地域社会などの様々な集団の一員として生き, 他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し, 表現する。
- ・幸福, 正義, 公正などに着目して, 倫理的価値の判断において, 行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と, 行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し, 自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け, 思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して, 人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し, 表現する。
- ・幸福, 正義, 公正などに着目して, 公共的な空間における基本的原理において, 思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して, 個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し, 表現する。
- ・公共的な空間を作る私たち, 公共的な空間における人間としての在り方生き方, 公共的な空間における基本原理について, よりよい社会の実現を視野に, 現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。 ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ・現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取っている。 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることに 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・幸福、正義、公正などに着目して、倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・幸福、正義、公正などに着目して、公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共的な空間を作る私たち、公共的な空間における人間としての在り方生き方、公共的な空間における基本原理について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

<p>ついて理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳と平等，個人の尊重，民主主義，法の支配，自由・権利と責任・義務など，公共的な空間における基本的原理について理解している。 		
---	--	--

3 指導と評価の計画の作成にあたって

単元という，学習内容のまとまりにおいて適切に学習評価を実施できるよう，以下のとおり指導と評価の計画を作成する。

(1) 「単元」の設定

指導計画は，学習指導要領の「1 目標」(以下，「目標」)及び「2 内容」(以下，「内容」)に示された資質・能力を育成できるよう，生徒や学校，地域の実態を踏まえて作成する。その際，学習内容のまとまりを見だし，適切に単元を設定することが大切である。なお，大項目Aは，この科目の導人として位置付け，(1)，(2)，(3)の順序で取り扱うよう学習指導要領に示されており，これに基づいて単元の学習計画を作成する必要がある。

(2) 「単元の目標」の設定

単元における観点ごとの目標は，「内容」を基に設定することができる。その際，「内容」に直接示されていない「学びに向かう力，人間性等」については，科目の「目標」を基に設定することが考えられる。

(3) 「単元の評価規準」の設定

単元における観点ごとの評価規準を設定する際には，「指導と評価の一体化」に留意する。すなわち，学習評価をその後の学習指導の改善に生かすという視点に立ち，単元の目標が達成できたかどうかを評価する。そこで，単元における観点ごとの評価規準については，単元の目標から設定されなければならない。具体的には，単元の目標と，「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方や評価の観点及びその趣旨などを踏まえて設定する。

なお，「公共」の「内容のまとまりごとの評価規準(例)」は，学習指導要領の「内容」(「主体的に学習に取り組む態度」については「目標」)を基に設定されている。そのため，「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を単元における観点ごとの評価規準とすることもできる。

(4) 「単元の指導計画及び評価計画」の作成

① 「単元の指導計画」の作成

今回の学習指導要領の改訂では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められ，深い学びを実現するためには，「社会的な見方・考え方」を働かせる問いを設定することの重要性が指摘されており，こうした問いを単元の指導計画に示すことは指導の充実を図る上で大切である。本事例でも「単元を貫く問い」や「各次の問い」を例示している。

生徒が「主体的・対話的で深い学び」に向かう適切な問いを設定するためには，指導計画を作成する際，それまでの生徒の学習状況などを的確に把握し，問いに対する生徒の発言や活動をよく予想した上で，必要な助言，支援を準備しておくことが大切である。また，他教科等との関連，専門家や関係諸機関との連携・協働について記載しておくことは，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善だけでなく，「社会に開かれた教育課程」の実現にもつながる。

② 「単元の評価計画」の作成

学習評価の役割は，生徒に学習状況の診断を伝え，改善の方向性を示すと共に，教師の指導改善に役立てることである。また，学習評価は，妥当性や信頼性が確保されていることが重要である一方，評価のデータを集積するために，授業において必要以上に時間を費やしたり，授業後に，教師

に過重な負担を強いたりするものであってはならない。単元の評価計画の作成に当たっては、これらのことに十分に留意する必要がある。そこで、第一に、単元の評価計画には、観点別学習状況の評価や評定に用いる「評定に用いる評価」と、観点別学習状況の評価や評定に用いないものの、学習状況を見取り、生徒の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導、支援を行う「学習改善につなげる評価」をあらかじめ位置付ける。具体的には、単元の学習過程において、各観点の評価を生徒にフィードバックし、必要があれば教師が指導、支援する「学習改善につなげる評価」を行い、生徒が学習状況の改善を図る機会をもった上で、「評定に用いる評価」を行うよう、単元の評価計画を作成する。生徒の資質・能力を確かに育むために、日々の授業で一人一人の学習状況を見取り、「学習改善につなげる評価」を行うことがとても大切である。その際、生徒一人一人の観点別学習状況の評価を記録する機会を精選し、教師が一層指導に傾注できるように工夫することも大切である。なお、指導と評価の展開例で「評定に用いる評価」(○)や「学習改善につなげる評価」(●)が位置付けられていない学習場面でも、生徒の学習状況を確認し、生徒の学習改善や教師の指導改善に生かして、生徒の資質・能力を確実に育むことが大切である。また、「評定に用いる評価」についても、生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすことが求められる。例えば、ペーパーテストを返却する際に単に模範解答例を教えるだけでなく、なぜそのような解答になるのかももう一度考えさせるなどして理解を深めさせることも考えられる。

第二に、妥当性や信頼性が確保された評価とするため、単元の評価計画に、次のことを示す。

- ・評価規準等 … 「単元の評価規準」を学習活動に即して書き換え、「おおむね満足できる」状況(B)を具体的に設定するとともに、「努力を要する」状況(C)への手立てを設定する。
- ・評価の時期 … 各観点の趣旨にしたがい、単元を見通して適切に位置付ける。
- ・評価方法 … 妥当性や信頼性が確保された評価になるように工夫する。

4 指導と評価の計画（10時間）

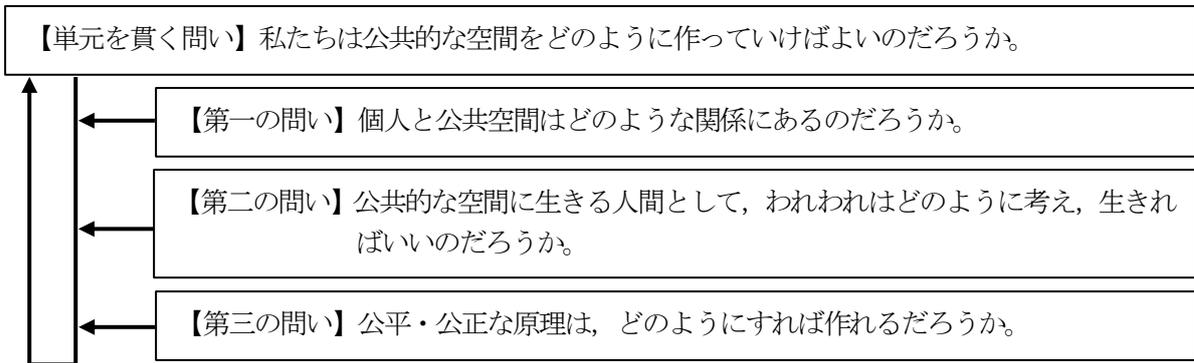
(1) 単元の指導計画

第一次「公共的な空間を作る私たち」・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2時間）

第二次「公共的な空間における人間としての在り方生き方」・・・・・・・・・・（4時間）

第三次「公共的な空間における基本原理」・・・・・・・・・・・・・・・・・・（4時間）

(2) 単元における問いの構造



(3) 指導と評価の展開例

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

次	ねらい・学習活動等 ◇学習活動の概要 問主発問 留) 指導上の留意点	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第一次 二時間	<p>【単元を貫く問い】 私たちは公共的な空間をどのように作っていけばよいのだろうか。</p> <p>◇【単元を貫く問い】 に対する答えを意識しながら、今後の学習を進めることを確認する。</p>			●	●この単元を学ぶに際し、問題意識をもって主体的に取り組もうとしている(発言)。
	<p>【第一次のねらい】 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを理解させる。</p>				
	<p>【第一次の問い】 個人と公共空間はどのような関係にあるだろうか。</p>				
	<p>◇自らの体験などを振り返ることを通して、自分という存在は、変化、成長するものであること、それは他者との関わりの中で起こるものであることを理解する。</p> <p>問 自分の考えは絶対的なものだろうか。</p> <p>留)・自分の意見や考え、性格は変化するものであり、変化してよいし、変化することが成長することであること、その変化は、他者や先人たちとの対話や関わりの中から生まれるものであることを理解させる。(個人)</p> <p>◇人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であること、対話を通して互いの様々な立場を理解し合うことのできる社会的な存在であることについて理解する。</p> <p>問 なぜ他者の意見は尊重しなければいけないのだろうか。</p> <p>留)・ヴォルテールの言葉「君の意見には全く賛同できないが、君にそれを言う権利があることは、命を懸けて守って見せる」を紹介し、その重要性を理解させる。</p> <p>・自分の意見を主張を認めてもらうことは、他者の意見の主張を認めることと表裏であることを理解させる。</p>			●	●自らの体験を振り返ることを通して、自分の考えが変わったこととその原因について考察し、変化することは成長することであること(変化してよいこと)、また、他人の考えに耳を傾けることの重要性を理解している。(記述)
	<p>◇人間は公共空間の中で生きる社会的な存在であり、伝統や文化、歴史と切り離して考えることができないことを理解する。</p> <p>問 私は、私を取り巻くどのような空間と関わっているだろうか。</p>			●	●自分が関わる伝統や文化、社会について理解し、自分という存在がそれらから切り離して考えられないことを理解し

	<p>留)・自分が関わりをもつグループ、組織、社会、文化、歴史などを書き出させ、自分という存在はそれらと切りはなして考えられないことを理解させる。日本の文化や様々な異文化等についても紹介し、自分の属する文化のみならず、異なる文化についても尊重することの重要性について理解させる。(個人・全体)</p> <p>◇先哲の思想を手掛かりとして、公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体としての責任について理解する。</p> <p>問 自分の判断や行為は、自分一人だけのものだろうか。</p> <p>留)・サルトルの「アンガジュマン」の概念を参考に、社会参加と責任について考察、理解させる。(全体)</p> <p>・その際、自分の決定や行為は必ず他者に影響を与え、他者や共同体と切り離せないこと、それゆえ自分が何かを決めたり行ったりすることには必ず責任が伴うものであることなどを、具体例を考察させながら理解させる。</p>	●	<p>そのためそれらを尊重することの重要性を理解している。また、それは他者にとっても同じであるため、異文化についても尊重しなければいけないことを理解している。</p> <p>(記述)</p> <p>●公共的な空間に存在するわれわれは、何をするにも単独であることはできず、他者や共同体と切り離して考えられないことを理解している。(記述)</p> <p>○自分という存在が、他者や自分を取り巻く空間と切りはなして考えることができないということを理解し、自分は他者や空間から影響を受けるとともに、空間を形成する存在であることを理解している。(記述)</p>
第二次 四時間	<p>【第二次のねらい】 自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、選択・判断の手掛かりとして行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを理解させる。</p> <p>【第二次の問い】 公共的な空間に生きる人間として、われわれは何を意識して、どのように考え、生きればいいのか。</p> <p>◇幸福、正義、公正などに着目して、選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて、理解する。</p> <p>問 友人との約束を守ることと、約束を破ってでも多くの人を幸福にすることは、どちらが正しいだろうか。</p> <p>留)・「無人島の約束」などを題材に、義務論と功利主義の対立について、他の人と意見を交わしながら論点を整理し、考えを深めさせる。(グループワーク)</p>	○	<p>●幸福、正義、公正などに着目して、公共的な空間についてについて考えることに意義を見いだしている。(発言)</p> <p>○正義や幸福に関するジレンマについて、他人の意見も尊重しながら考察を深め、自分の考えを表現している。(記述・ワークシート)</p>

	<p>◇環境問題を題材に、個人の幸福と、社会全体の幸福の関係について考えを深め、そこから、問題解決の糸口を考察する。</p> <p>問 環境破壊はなぜ起きるのだろうか、また、なぜ進行を食い止められないのだろうか。</p> <p>留)・「共有地の悲劇」を題材に、個人の幸福と社会(人類全体)の幸福の関係について考察させる。(個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アダム＝スミスの自由放任主義の根底には共感(シンパシー)があることを理解させ、新自由主義といわれる考え方と比較して考えさせる。 ・温暖化や海洋汚染などの環境破壊を防ぐためには、人類はどのような思考(方法ではなく)が必要であるかを、多面的・多角的に考察させる。 <p>◇生命倫理に関する課題について、必ずしも正解のない問題の解決策を模索することを通して、より良い解決策を考え続けることの必要性について理解する。</p> <p>問 数に限りのあるワクチンは、どのように優先的に分配するのが適切であろうか。</p> <p>留)・課題を考察することを通して、選択・判断の手掛かりとする考え方の依拠する価値観などについて、他の人と意見を交わしながら、多面的・多角的に考察させる。(グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トリアージという考え方についてもよく理解させ、どのような場合であれば許されるのか(あるいは許されないのか)などについても、多面的・多角的に考察させる。 	●	●	<p>●環境問題を他人事ではなく自分事と考え、自らも他者も納得できる解決方法を主体的に粘り強く見つけようとしている。(発言)</p> <p>●人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取っている。(記述)</p> <p>○倫理的価値の判断において、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。(記述・ワークシート)</p> <p>●よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に解決しようとしている。(発言)</p> <p>○必ずしも正解のない問題について、皆ができるだけ納得できる解決方法を見いだすため、他者と協働して考えを整理し、粘り強く答えを求めようとしている。(記述・ワークシート)</p>
第三次 四時間	<p>【第三次のねらい】 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作るために必要であること及び人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など公共的な空間における基本的原理について理解させる。</p> <p>【第三次の問い】 公平・公正な原理は、どのようにすれば作れるだろうか。</p>			

◇人間の尊厳と平等，協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが必要であることを理解する。

問 公正・公平なルールは，どのようにすればつくれるであろうか。

留)・ロールズの「無知のヴェール」の思考実験をやらせてみる。目をつぶらせて，自分に関する情報（人種，性別，年齢，社会的立場，経済状況等）が一切わからない状態を想像させ，その状態で皆で話し合っ共同のルールを作ったらどのようなルールになるかを考えさせる。

（全体）

- ・自分の今の境遇（立場）は，たまたまそうであるにすぎず，違う立場（弱い立場）に生まれる可能性もあったことについても思いを馳せさせ，考察させる。

問 マンションのエレベーターの修繕費用は，どのような負担割合にするのが公平・公正であろうか。

留)・エレベーターの修繕費用問題を題材に，公平・公正な解決方法はどのようにしたら見つけれられるかを考察させる。（グループワーク）

- ・その際，人はすべてそれぞれ異なる立場に立っていることを理解させ，ルールは，そのような異なる立場に立つ人々をできるだけ満足させるものでなければいけないこと，そのためには結果のみならず，手続きの公正さ等も重要であることに気付かせる。

◇人間の尊厳と平等，個人の尊重が，よりよい公共的な空間を作り，互いに協働する上で基礎となることを理解する。

問 アファーマティブアクションとは何か。それはなぜ必要なのか。また，アファーマティブアクションは逆差別であるという意見についてどう考えるだろうか。

留)・この世界，この国に存在する不合理な差別を具体的な事例とともに理解させ，それらの解消の

●各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して，人間の尊厳と平等，協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが，公共的な空間を作る上で重要であることを理解している。（記述）

●自分の今ある境遇がたまたまそうであるにすぎないことを理解し，違う立場（弱い立場）だったらということが想像できている。その上で，公共のルールを作る際はそういう人への配慮が必要であることが理解できている。（記述）

○公共的な空間において，立場の違う人たちがともに納得できる解決方法について，他の人たちと協働しながら粘り強く考察をしている。（記述・ワークシート）

●間接差別やアファーマティブアクションなどに関する課題について主体的に学習しようとしている。（発言）

●世界には多くの不合理な差別や格差が存在する

<p>ためには、どのような方法が考えられるかを考察させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状のままで平等をうたうだけでは解消されない差別もあり、そのようなものについては、一時的に不合理であっても積極的に是正措置をとることが必要な場合もあるということについて理解させる。 ・アファーマティブアクションを逆差別だと主張する人は、現状で社会的に優位な立場にいる人が多いことを理解させる。 <p>◇民主主義、法の支配がよりよい公共的な空間を実現する仕組みであることを理解する。</p> <p>問 民主主義は多数決で決められることが多いが、多数決に問題はないのだろうか。また、多数決にはどのような方法があり、どのように結果の違いが出るだろうか。</p> <p>留 ・様々な多数決の方法を体験させることで、多数決はやり方によって結果が全く変わってしまうこと、これは選挙などにも当てはまることを理解させる。(個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民主主義=多数決ではなく、多数決は最後の手段であるということ、および、多数決は「多数者の専制」になりやすいということなど、多数決の問題点についても理解させる。可能であれば「アロウの不可能性定理」にも触れてみる。 <p>問 法の支配とは何だろうか。なぜ法の支配は重要なのだろうか。</p> <p>留 ・法に関する基本理念について、人の支配や、法治主義と対比させながら、法の支配の重要性について理解させ、法の支配の目的が人権保障であることを理解させる。また、憲法の役割、立憲主義の意味などについても理解させる。(全体)</p> <p>問 権力分立はなぜ必要なのだろうか。</p> <p>留 権力分立の目的は、権力の暴走を防ぐことであるが、その最終的な目的は人権保障であることを理解させる。様々な権力分立の形態・機能の違い等についても理解させる。(全体)</p>	<p>○</p> <p>●</p> <p>●</p>	<p>ことを認識し、また、それらの差別や格差が単なる個人の意識に起因するだけのものではなく、社会構造的なものでもあることを理解し、その解消の方法を多面的・多角的に考察し、表現できている。(記述)</p> <p>○民主主義とは多数決ではないということを理解できている。また、多数決は絶対的な方法ではなく、様々な方法があり、方法によって結果が変わってしまうということを実際に行ってみて理解、納得できている。このことは、それが選挙にも当てはまり、現在の選挙制度が必ずしも絶対に正しいわけではないことを理解できている。(記述・ワークシート)</p> <p>●法の支配、人の支配、法治主義の違いについて説明でき、法の支配の目的が人権を守ることを理解している。憲法の役割、立憲主義の意味についても理解し、表現できている。(記述)</p> <p>●権力分立の目的が人権保障であることを理解し、表現できている。また、権力分立の種類等についても理解している。(記述)</p>
<p>【単元を貫く問い】 私たちは公共的な空間をどのように作っていけばよいのだろうか。</p>		

<p>◇単元全体を振り返り，【単元を貫く問い】についての答えを改めて考える。</p> <p>問 私たちは公共的な空間をどのように作っていけばよいのだろうか。</p> <p>留・単元を貫く問いに対して自分の考えをまとめる際に，第一次から第三次の学習を振り返りながらまとめるよう指導する。</p>		<p>○ ○単元の導入時に立てた見通しを踏まえて，学習への自身の関わりを振り返り，自分にとっての学習の意義を見いだしている。(記述)</p> <p>○よりよい社会の形成に参画することに向けて関心を持ち，問い続けていくべき現代の諸課題とその課題を問い続けていくことの意義を見いだしている。(記述)</p>
--	--	---

注：○や●が付されていない学習場面においても，生徒の学習状況を確認し，生徒の学習改善や教師の指導の改善に生かすことは大切である。

5 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 知識・技能

「知識・技能」に限らず，学習の過程で生徒の学習状況を見取り，評定のための資料としては用いないものの，生徒を認め励まし，「学習改善につなげる評価」(●)を行うことが，生徒に資質・能力を確実に身に付けさせるために大切である。「知識・技能」において，「おおむね満足できる」状況(B)に達していない生徒がいる場合，次の授業以降に再度説明するなど，確実に身に付けさせる手立てが必要になる。このような指導，助言を行った上で，「評定に用いる評価」(○)を行う。

例えば，第二次では「おおむね満足できる」状況(B)を次のように設定することが考えられる。

- ・行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と，行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を記述している。
- ・環境保護に関する現実の事例の中から，人間としての在り方生き方に関わる情報を収集している。

「行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方」は，ある状況でなすべき正しい行為は何かを決定する際に，実行可能な選択肢と予期されるその結果を比較，検討し，当の行為によって影響を受けるであろう全ての人々の幸福を全体として最大にする行為が道徳的に正しいと考える原理を重視する考え方のことであり，「行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方」は，予期される結果に関わりなく，人間には従うべき義務的な制約があり，それに基づいて行為すべきであるとする原理を重視する考え方であることについておおよそ記述できていれば，「おおむね満足できる」状況(B)とする。また，環境保護に関する現実の事例の中から，よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集することができていれば，「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。

なお，上で説明した二つの考え方は，大項目Bで現実社会の諸課題にかかわる具体的な主題を追究したり，大項目Cで現代の諸課題を探究したりする際にも活用する考え方である。そのため，大項目B及び大項目Cの学習で活用することを通して理解が深まっていくことが考えられる。

「おおむね満足できる」状況(B)に達していない生徒がいる場合は，次の授業以降に思考実験など分かりやすい具体例を用いて補足説明を行うことや，環境保護に関する現実の事例を採る際に，情報を収集する要点を説明したり生徒間で教え合ったりすることなど，確実に理解できる手立てが必要になる。こ

のような指導や助言を行った上で、「評定に用いる評価」を行う。

「評定に用いる評価」については、ワークシート等への記述で評価するほか、定期考査等で別の事例を用いて理解を見取り、評価することも考えられる。

「十分満足できる」状況（A）については、生徒が実現している学習の状況が、質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときであり、多様な状況が考えられる。例えば、第二次で学習する二つの考え方については、「おおむね満足できる」状況（B）の記述に加えて、二つの考え方を説明する上で適切な社会的事象を事例としてあげ、的確に説明している場合などが考えられる。

（2）思考・判断・表現

公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性、幸福、正義、公正などに着目して、習得した知識及び技能を活用しながら多面的・多角的に考察し、表現できているか評価する。この単元では、第一次から第三次それぞれにおいて「学習改善につなげる評価」を行い、生徒に必要な指導や助言をした上で「評定に用いる評価」を行う。この観点で留意すべきことは、考察し、構想するに当たって、「公共的な空間と人間との関わり」、「個人の尊厳と自主・自律」、「人間と社会の多様性と共通性」、「幸福」、「正義」、「公正」などに着目しているかどうかを確認することである。したがって、「学習改善につなげる評価」で生徒がこれらの概念に着目していない場合、これらについて復習したり、考察する際に着目できるよう必要な指導や助言を行ったりするなどした上で、「評定に用いる評価」を行うことが大切である。

（3）主体的に学習に取り組む態度

単元の最初に学習の見通しをもたせて「学習改善につなげる評価」を行い、必要な指導や助言を行うことを通して、生徒に学習の見通しを確実にもたせる。その上で、単元の終末に学習を振り返らせて「評定に用いる評価」を行う。具体的には、「公共的な空間をつくる私たち」、「公共的な空間における人間としての在り方生き方」、「公共的な空間における基本原理」の学習に対して、自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組み、公共的な空間を作る重要性から、主体的に学習に関わろうとする態度について評価する。このうち、「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」については、単元の終末で、単元の始めに立てた見通しを踏まえて学習への自身の関わりを振り返り、自分にとっての学習の意義として見いだした内容により評価する。「現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度」については、単元の学習後も関心をもって自ら追究し続けたい、すなわち大項目Bの主題及び大項目Cの現代の諸課題で探究したいこととして記述した内容によって評価する。

6 思考・判断・表現に関する評価

○【公共ワークシート No. 1】（別添）に関する評価

この題材は、学習指導要領にある「幸福、正義、公正などに着目して、倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動」に関するものである。

はじめに教員側から考え方を提示するのではなく、具体的な問題事例を考察することを通して、二つの見方に整理されてくるのが望ましい。この、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方のように、どちらが絶対的に正しいとも言えず、しかし、場合によっては人生の選択にも関わるような重要な問題の場合、①まず自分でそれぞれの立場が考える正義と幸福に関する考え方について考察を十分に深めさせ、②その上で他者の意見も聞いて、自分の考えに不足していた点などに気づかせながら論点を整理させ、③最終的に両方の立場を踏まえたうえで自分の考えを根拠とともに表現できるようにさせることが重要である。

また、このような問題は必ずしも二者択一になるとは限らない。状況や条件によっては同じ人でも違う選択をとる可能性もある。単純に二者択一のものとは考えさせず、結論を出すことよりもそれぞれの観点についての考察を深めさせることが重要である。評価する際は、この点を踏まえて、両方の観点を整理し考察を深められているかを見る必要がある。

◇結果を重視する観点（功利主義的観点）：「約束を守る」ということは非常に重要なことではあるが、それを通すことによって救える人が救えなくなる人がいるかもしれない。約束を守ることは確かに重要だが、できるだけ多くの人を救ったり、多くの人が幸せになるようにしたりすることは、それ以上に重要なことなのではないか。

◇動機を重視する観点（義務論的観点）：たとえ相手がいなくなった約束であっても、約束を破るということは正義の基準を破ることになる。これが許されるならば、他の約束も同様に反故にすることを認めることになるのではないだろうか。「約束を守る」ことは、人間と人間の関係性の要である「信頼」を維持するために何より重要な社会規範であり、これを破棄することは「信頼」によって成り立つ社会そのものを否定、崩壊させることになるのではないだろうか。

《「おおむね満足できる」状況（B）とする規準》

それぞれの考え方によって得られる利点、起こりうる問題点などを整理し、それぞれの観点が何を重視しているのかを具体例を踏まえて表現できている。

《「努力を要する」状況（C）の記述例》

たとえ、多くの人々が幸せになるとしても、約束を破ることは友人を裏切ることであり、許されないことだ。（一方の観点からしか考えられておらず、考察を深められていない。）

→自分の思いだけに固執せず、違った角度からも考えてみるよう指導する。

○【公共ワークシート No. 2】（別添）に関する評価

この教材は、学習指導要領にある「人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解する」の、民主主義に関するものである。

民主主義とは、その社会の構成員である人民がその社会の意志決定権を持つことであるが、その際、どうしても多数決をイメージしてしまうことが多い。しかし、民主主義の基本は、皆が納得いくまで話し合い、できるだけ多くの人々が納得する決定をすることである。多数決は最後の手段に過ぎない。まずこの点を踏まえた上で、できるだけ多くの民意を反映させる方法は何かということを考えさせる。

多数決の方法として、単純な多数決、上位2位による決選投票を含める多数決、ボルダールールによる投票、という3種類を具体的事例で比較し、やり方によって当選する人が変わってしまうことを体験させる。それを通じて、現実の選挙制度も、今あるやり方が最善、絶対ではなく、どのようなやり方が最も民意を反映させられるのかということを不断に考えていく必要があることを意識させる。

《「おおむね満足できる」状況（B）とする規準》

それぞれの多数決のやり方と特徴を理解し、それを表現できている。また、同じ民意であっても、やり方によって民意の反映のされ方が変わってしまうということを理解できている。

《「努力を要する」状況（C）の記述例》

多数決にはいろいろなやり方があるということを知ることができた。（それぞれの特徴の違いを表現できていない。）

→それぞれの人たちの意見が反映されているのかを考えさせる。

7 主体的に学習に取り組む態度の評価

公共の「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、①「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」と②「現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度」において行われる。後者の評価基準は、「公共の扉」においては、「公共的な空間を作る私たち、公共的な空間における人間としての在り方生

き方、公共的な空間における基本原理について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。」となっている。

ここでは、「自己評価シート」(別紙)を用いて、単元のはじめ、各次におけるまとめ、単元のまとめにおいて、上記「主体的に学習に取り組む態度」を評価することを想定する。単元の最初で、「単元を貫く問い」に対する仮の答えを考えさせ、この単元で考えるべきことの見通しを立てさせる。その後、第1次～第3次の学習の終わりにおいて、各次の問いへの答えをまとめさせながら振り返りをさせ、それを通じて「学習改善につなげる評価」(●)を行う。ここで「おおむね満足できる状況」(B)に達していない生徒については改善させる手立てを講じ、学習改善をさせたいうえで、最終的に単元の終わりにおいて、「単元を貫く問い」に対する答えをまとめさせながら、単元全体の振り返りをさせる。この記述を用いて「評定に用いる評価」(○)を行う。

①「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」の評価

単元の学習を通して新たに理解したことやより理解が深まったこと、またできるようになったことにつながる学習活動を見出すことができているれば「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。具体的には、単元の始めと終わり、それまで知らなかったことに気づくことで自分の考えが変化していることを自覚していることが見て取れるようであれば(B)と判断する。

②「現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度」の評価

評価シートの記述において、公共的な空間に生きる人間として、公共的な空間を作っていく主体であることが自覚していることが見て取れ、公共的な空間における諸課題を自分事として捉え、それらを改善することで公共的な空間をよりよいものにしていこうという意志が、具体的な記述の形で見て取ることができれば、「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。

《「努力を要する」状況(C)の記述例》

公共的な空間の中で生きる我々は、他者と協力しながら、ルールを守って暮らしていく必要がある。

(公共的な空間の参画者としての自覚見て取れず、解決すべき具体的な諸課題をイメージできていない。)

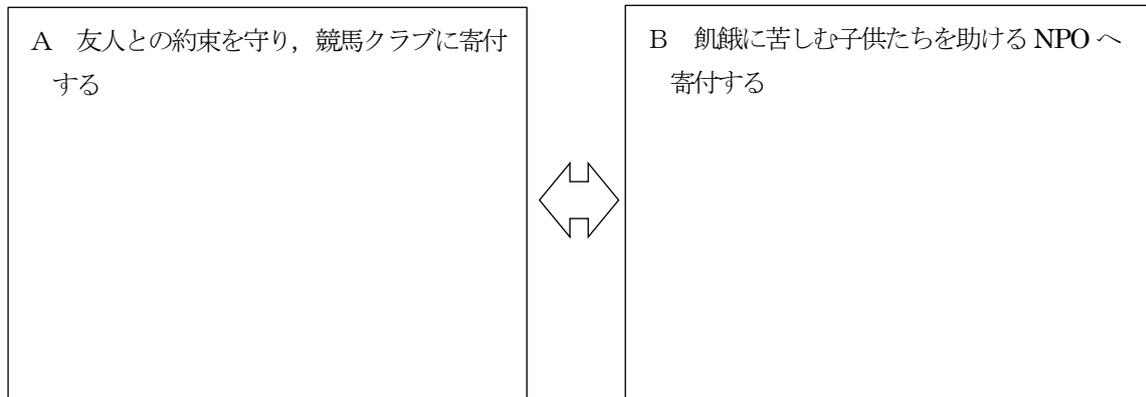
→主体的に国際社会や地域社会の課題を見だし、その課題に向けて自分自身がどんな取組ができるか考えるよう助言する。

テーマ【 無人島での約束 】～功利主義と義務論～ 〈思考・判断・表現〉

船が難破し、あなたとあなたの友人はある無人島にたどり着いた。その後、救助が来る前に友人は衰弱して死んだ。彼は死ぬ直前にあなたに、「もし君が生きて帰れたら、自分の全財産は自分が大好きだった競馬クラブに寄付してほしい」と言い残し、あなたは「きっとそうする」と約束した。

その後、しばらくして救助が来てあなたはなんとか助かった。あなたは友人との約束を果たすつもりでいたが、よく考えると、そのお金は飢餓に苦しむ子供たちを助ける NPO 団体へ寄付した方が、多くの方が幸福になるのではないかと思うようになった。あなたと友人の約束は、あなた以外誰も知らない。さてあなたはどのようにすべきだろうか。

(1) 論点整理……それぞれの選択をとった場合に起こりうることをまとめましょう。(個人内考察)



(2) 対立の論点……他の人と意見交換しながら、この二つの選択はそれぞれ何を重視しているのかをまとめましょう。(グループ内考察)

(3) まとめの考察……どうするのが正しいのか、なぜそう考えるのか、自分の考えをまとめましょう。(個人内考察)

(4) 自己評価

- | | |
|------------------------------------|---------------|
| 1. 自分の考えを整理し、わかりやすく伝えることができた。 | 【 A ・ B ・ C 】 |
| 2. 友達の意見に真摯に耳を傾け、協働して考えることができた。 | 【 A ・ B ・ C 】 |
| 3. 自分と友達の考えを総合して、論点を整理しまとめることができた。 | 【 A ・ B ・ C 】 |
| 4. 関心・意欲をもって課題に取り組むことができた。 | 【 A ・ B ・ C 】 |

(5) 感想、今後の課題

(6) 教員からのアドバイス

テーマ【 様々な多数決 】 (思考・判断・表現)

民主主義はできるだけ多くの人々の意見を反映させることが理想である。話し合いによって全員の考えが一致するのが最も望ましいが、話し合ってもまとまらない場合、多数決で決めざるをえない場合も多い。しかし、多数決は「多数者の専制」になり少数意見を切り捨ててしまうという問題点がある。また、多数決といっても様々な方法があり、やり方によって結果は変わってくる。

以下のワークに取り組み、方法で結果が変わることを確かめ、それぞれの方法がどれだけの人の意見を反映できているのかを確かめましょう。

- (1) 当選枠1人の選挙に、佐藤さん、鈴木さん、田中さんの3人が立候補しました。投票者は30人いて、この投票者たちは次のように考えているとします。下の①～③の方法で投票をすると、それぞれ誰が当選するか答えなさい。

佐藤>鈴木>田中	の順番で望ましいと考えている人・・・	12人
佐藤>田中>鈴木	の順番で望ましいと考えている人・・・	0人
鈴木>佐藤>田中	の順番で望ましいと考えている人・・・	1人
鈴木>田中>佐藤	の順番で望ましいと考えている人・・・	7人
田中>佐藤>鈴木	の順番で望ましいと考えている人・・・	0人
田中>鈴木>佐藤	の順番で望ましいと考えている人・・・	10人

- ① 単純な多数決で決定する方法 (投票者は第1希望の人だけにのみ投票する)

佐藤さん： 票 鈴木さん： 票 田中さん： 票 《当選者》

- ② 単純な多数決を行い、どの候補の得票も過半数に満たなければ、上位2者での決選投票を行う方法

決選投票の結果 ()さん： 票 ()さん： 票 《当選者》

- ③ 投票者は、第1希望から第3希望までを書いて投票し、第1希望に3点、第2希望に2点、第3希望に1点を配分して、それぞれの候補に入った票数で計算して決定する方法 (ボルダールール)

佐藤さん： 3点× 票 +2点× 票+1点× 票 =
 鈴木さん： 3点× 票 +2点× 票+1点× 票 =
 田中さん： 3点× 票 +2点× 票+1点× 票 = 《当選者》

- (2) 上記の①～③を比較しながら、それぞれの方法がどれだけの人の意見を反映できているのかをまとめましょう。

- (3) 自己評価

- それぞれの方法について正しく理解できた。 【 A ・ B ・ C 】
- 多数決の方法によって結果が変わってくることを理解できた。 【 A ・ B ・ C 】
- 多数決の方法によって意見を反映させられる人の範囲が変わることを理解できた。 【 A ・ B ・ C 】
- 関心・意欲をもって課題に取り組むことができた。 【 A ・ B ・ C 】

- (4) 感想、今後の課題

- (5) 教員からのアドバイス

公共 自己評価シート

年 組 番 氏名

単元の導入 年 月 日

単元を貫く問い：私たちは公共的な空間をどのように作っていけばよいのだろうか。

《仮の答え》

第1次のまとめ 年 月 日

(1) 第1次の問い：個人と公共的な空間はどのような関係にあるのだろうか。

《自分の答え》

(2) 自己評価

- 1. 今回のテーマをよく理解できた。 [A ・ B ・ C]
- 2. 自分の考えをわかりやすくまとめ、表現することができた。 [A ・ B ・ C]
- 3. 関心・意欲をもって課題に取り組むことができた。 [A ・ B ・ C]

(3) 第1次の学びの中で気づいたこと、考えたこと。さらに調べたいこと。

第2次のまとめ 年 月 日

(1) 第2次の問い：公共的な空間に生きる人間として、われわれはどのように考え、生きればよいのだろうか。

《自分の答え》

(2) 自己評価

- 1. 今回のテーマをよく理解できた。 [A ・ B ・ C]
- 2. 自分の考えをわかりやすくまとめ、伝えることができた。 [A ・ B ・ C]
- 3. 友達の見解に真摯に耳を傾け、協働して考えることができた。 [A ・ B ・ C]
- 4. 関心・意欲をもって課題に取り組むことができた。 [A ・ B ・ C]

(3) 第2次の学びの中で気づいたこと、考えたこと。さらに調べたいこと。

第3次のまとめ 年 月 日

(1) 第3次の問い：公正・公平な原理は、どのようにすれば作れるだろうか。

《自分の答え》

(2) 自己評価

- 1. 今回のテーマをよく理解できた。 [A ・ B ・ C]
- 2. 自分の考えをわかりやすくまとめ、伝えることができた。 [A ・ B ・ C]
- 3. 友達の見解に真摯に耳を傾け、協働して考えることができた。 [A ・ B ・ C]
- 4. 関心・意欲をもって課題に取り組むことができた。 [A ・ B ・ C]

(3) 第3次の学びの中で気づいたこと、考えたこと。さらに調べたいこと。

単元のまとめ 年 月 日

(1) 単元を貫く問い：私たちは公共的な空間をどのように作っていけばよいのだろうか。

《まとめの答え》

(2) 自己評価

- 1. 単元のテーマをよく理解できた。 [A ・ B ・ C]
- 2. 自分の考えをわかりやすくまとめ、伝えることができた。 [A ・ B ・ C]
- 3. 友達の見解に真摯に耳を傾け、協働して考えることができた。 [A ・ B ・ C]
- 4. 関心・意欲をもって課題に取り組むことができた。 [A ・ B ・ C]

(3) この単元の学びの中で気づいたこと、考えたこと。さらに調べたいこと。

公民科 事例2 (公共)

テーマ 「知識・技能」の評価, 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単元名

主として政治に関わる事項

内容のまとめり

B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

1 単元の目標

自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。
- ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。
- ・主として政治に関わる事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- ・現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

2 単元の評価規準

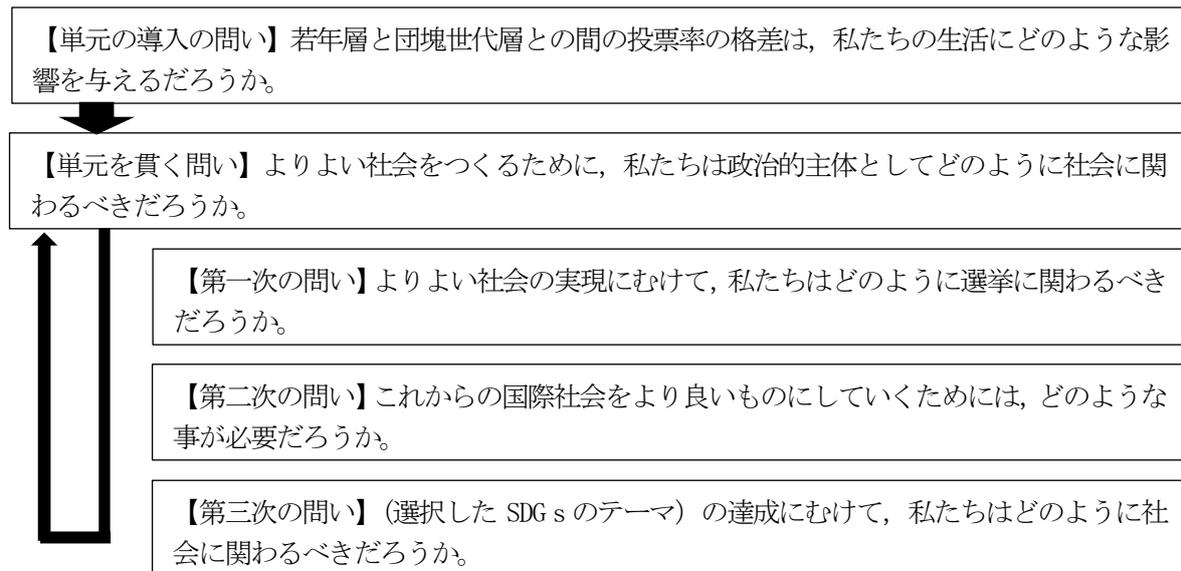
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 	<p>幸福、正義、公正などに着目して、主として政治に関わる事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p>	<p>現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>

3 指導と評価の計画（15時間）

（1）単元の指導計画

単元の導入	（1時間）
第一次	（4時間）
第二次	（6時間）
第三次	（3時間）
単元のまとめ	（1時間）

（2）単元における問いの構造



（3）指導と評価の展開例

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

次	ねらい・学習活動等 ◇学習活動の概要 問主発問 留>指導上の留意点	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
単元 の 導 入	【単元の導入のねらい】若年層と団塊世代層との間の投票率の差が、国の政策立案や私たちの生活にどのような影響を与えるのか考察する活動を通して、公正公平な政治社会の実現のために主体的に政治に参加することの必要性に気づかせ、学習に対する関心を高めるとともに、学習の見通しを持たせる。				
1 時 間	◇国政選挙における世代間の投票率の差が、国の政策立案や生徒の生活に与える影響についてグループで考察することを通して、生徒自身が政治に主体的に参加することの必要性に気づき、【単元の問い】を設定し、単元の学習に見通しを持つ。 問 若年層と団塊世代層との間の投票率の格差は、私たちの生活にどのような影響を与えるだろうか。			●	【単元を貫く問い】の解決にむけて、【単元の導入の問い】での考察内容を踏まえながら、問いに対する答えを予想したり、解決すべき疑問を挙げたりするな

	<p>留)・新聞やインターネット等を活用して情報を広く収集し、根拠に基づいて意見を発表させる。</p>				<p>ど、解決への見通しを立てている。(発表・ワークシート)</p>
	<p>【単元を貫く問い】よりよい社会をつくるために、私たちは政治的主体としてどのように社会に関わるべきだろうか。</p>				
<p>第一次 4時間</p>	<p>【第一次のねらい】体験活動や具体的な資料を用いて、我が国の地方自治や選挙制度について理解を深めた上で、個々人がどのように選挙に関わっていくべきか考察する活動を通して、よりよい社会の実現にむけて、主体的に社会に関わろうとする態度や、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けさせる。</p>				
	<p>【第一次の問い】よりよい社会の実現にむけて、私たちはどのように選挙に関わるべきだろうか。</p>				
	<p>◇憲法規定を含む地方自治に関する諸資料から、必要な情報を読み取って考察し、地方自治の制度や住民の政治参加のあり方、現状と課題について理解を深める。</p> <p>問 我が国の地方自治とはどのようなものだろうか。</p> <p>留)・授業にあたっては、議会や首長の活動を取り上げたり、条例を示したりするなど、生徒が必要な情報を的確に読み取ったり、まとめたりできるよう工夫する。</p>	<p>●</p>			<p>●我が国の地方自治制度について、具体的な資料に基づいて理解を深めている。(ワークシート)</p> <p>●地方自治制度に関わる諸資料から、考察に必要な情報を適切かつ効果的に読み取り、まとめることができている。(ワークシート)</p>
	<p>◇模擬選挙の体験を通して、我が国の選挙制度の実際について理解を深めるとともに、グループで協働して選挙制度の課題と解決方策について考察する。(2時間扱い)</p> <p>問 我が国の選挙制度の課題とその解決策を考えよう。</p> <p>留)・衆議院と参議院の双方の仕組みが理解できるように、模擬選挙の取り扱いを工夫する。</p> <p>・例えば、選挙管理委員会等の外部組織と連携して授業を展開することも考えられる。</p>	<p>●</p>			<p>●模擬選挙の体験から、我が国の国政選挙の制度や課題について理解を深めている。(ワークシート)</p> <p>●選挙制度の課題とその解決方策について、他者と協働して考察し、論拠をもって自らの意見を表現できている。(発表)</p>

	<p>◇前時までに学習した内容を踏まえて、【第一次の問い】を考察する。</p> <p>問 よりよい社会の実現にむけて、私たちはどのように選挙に関わるべきだろうか。</p> <p>留)・インターネット等を活用して、自らの意見の根拠となる資料を収集させて、ワークシート中に的確に示させるようにする。</p>	○	<p>○よりよい社会の実現にむけて、個人が議論に参加することの重要性を理解している。(ワークシート)</p> <p>○自らの意見を主張する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(ワークシート)</p>
<p>第二次</p> <p>6時間</p>	<p>【第二次のねらい】 目指されるべき平和共存のあり方について考察・構想する活動を通して、国家主権や領域(領土・領海・領空)、安全保障と防衛などについて理解を深めるとともに、これからの国際社会においては、意見の対立を超えて合意を形成していくことが重要であることについての気づきを持たせる。</p>		
	<p>【第二次の問い】 これからの国際社会をより良いものにしていくためには、どのような事が必要だろうか。</p>		
	<p>◇国内政治と国際政治の違いや国家主権や領域について、国際法と国内の法令との比較検討を通して理解を深める。</p> <p>問 国際法と国内の法令との違いは何か。</p> <p>留)・単に国内政治と国際政治の違いを明らかにするだけでなく、イェリネックの国家の三要素やボードンの主権区分等に言及することで、国家主権や領域について理解を深めることが出来るように工夫する。</p> <p>・国際法や国内法の具体的な適用例や判例等の諸資料を用いて、論拠を持って理解を深められるよう工夫する。</p> <p>◇我が国の安全保障と防衛について、資料を用いて考察し、理解を深める。</p> <p>問 我が国の安全保障や防衛政策はどのようなものだろうか。</p> <p>留)・必要に応じて、インターネット等を活用しながら、考察ができるようにする。</p> <p>◇安全保障理事会で取り扱われた具体的な国際的な諸課</p>	●	<p>●国際法と国内法令の比較検討を通して、国家主権や領域、国際政治の特質などについて理解を深めている。(記述)</p> <p>●諸資料から、考察に必要な情報を適切かつ効果的に読み取り、まとめることができている。(記述)</p> <p>●資料の考察にもとづいて、我が国の安全保障の歴史的展開や防衛政策の実際について理解を深めている。(記述)</p> <p>●討論会で自らの意</p>

	<p>題を1つ取り上げて、模擬安全保障理事会の活動を通して、国際社会において意見の対立を超えて合意を形成することの重要性と困難を理解させる。(3時間扱い)</p> <p>問 (具体的なテーマ) について、国家間での合意を形成するためにどのような課題があるだろうか。</p> <p>留) ・いくつかの小グループを編成し、各グループに安全保障理事会の常任理事国や非常任理事国の役割を設定して討論を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・討論の前に、討論を準備するための時間を設けて議論が深まるように工夫する。時間が確保できない場合は、持ち帰りの課題にするなど工夫する。 ・模擬安全保障理事会の活動が終了した後に、上述の問いについて検討する時間を設ける。時間が確保できない場合は、持ち帰りのレポート課題にするなど工夫する。 <p>◇これまでの学習を踏まえて、【第二次の問い】を追究し、考察・構想したことをレポート課題で表現する。</p> <p>問 これからの国際社会をより良いものにしていくためには、どのような事が必要だろうか。</p>				<p>見を主張するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめることができている。</p> <p>(観察・記述)</p> <p>●課題とその解決方策について、他者と協働して考察・構想し、論拠をもって自らの意見を表現できている。(発表)</p> <p>○幸福・正義・公正などに着目して、【第二次の問い】の解決にむけて、事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(成果物・レポート)</p>
<p>第三次 3時間</p>	<p>【第三次のねらい】 国連の示すSDGsの中から自らの関心に基づいて1つテーマを選択させて、そのテーマについて我が国が国際社会で果たすべき役割や、我が国の国際貢献に自らがどのように関わり、何をすべきであるか探究する活動を通して、国際社会における我が国の立場や国際協力の現状について理解を深めるとともに、よりよい社会に実現にむけて、国際的な視座に立って、社会への関わり方について思索を深める。</p> <p>【第三次の問い】 (選択したSDGsのテーマ) の達成にむけて、私たちはどのように社会に関わるべきだろうか。</p> <p>◇SDGsについての資料を概観しながら、国連が掲げる17の世界的目標について理解した上で、自らの興味や関心に基づいて1つのテーマを選択し、【第四次の問い】を設定する。</p>	●	●	●	<p>●単元の導入時に立てた見通しを踏まえて、学習に対する自身の関わりを振り返り、学習の意義を見いだしている。(記述)</p>

	<p>問 (選択したSDGsのテーマ)の達成にむけて、私たちはどのように社会に関わるべきだろうか。</p> <p>留)・本活動では生徒に好きなテーマを自由に選択させているが、学校の実情に応じて、予めテーマを絞って設定することも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の日常と関連付けてテーマを設定できるよう工夫する。 <p>◇前時で設定した【第三次の問い】について、我が国の具体的な国際貢献等の事例を理解した上で、自らの考えを深める。</p> <p>留)・個人の視点だけでなく、日本や国際社会の視点を踏まえるように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループを編成し、自由な雰囲気の中で生徒たちが意見を共有しあえる環境を創出できるよう工夫する。 <p>◇ポスターセッションを行い、前時までに各自が考察した内容を共有する。その上で、他者の意見を踏まえながら、自らの意見を再検討し、検討した内容をレポートとしてまとめる。</p>				<p>●よりよい社会の実現にむけて、問い続けていくべき現代の諸課題と、問い続けていく意義を見いだしている。(記述)</p> <p>●我が国の国際協力の実際について、具体の資料を根拠に理解している。(成果物・観察)</p> <p>●他者と協働して考察・構想し、論拠をもって自らの意見を表現できている。(発表)</p> <p>○【第三次の問い】の解決にむけて、事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(成果物・レポート)</p>
<p>単元のまとめ</p> <p>1時間</p>	<p>【単元を貫く問い】よりよい社会をつくるために、私たちは政治的主体としてどのように社会に関わるべきだろうか。</p> <p>◇本単元で学んだことを踏まえて、【単元を貫く問い】について自らの考えを論述する。</p> <p>問 よりよい社会をつくるために、私たちは政治的主体としてどのように社会に関わるべきだろうか。</p> <p>留)・個人による論述課題を課し、【単元を貫く問い】に対し自らの考えをまとめる際は、第一次から第三次までの学習を振り返るよう助言する。</p>	○	○	○	<p>○よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。(記述)</p> <p>○単元の導入時に立てた見通しを踏まえて、学習に対する自身の関わりを振り返</p>

					り、学習の意義を見 いだしている。(記 述) ○よりよい社会の実 現にむけて、問い続 けていくべき現代の 諸課題と、問い続け ていく意義を見いだ している。(記述)
--	--	--	--	--	--

注：○や●が付されていない学習場面においても、生徒の学習状況を確認し、生徒の学習改善や教師の指導の改善に生かすことは大切である。

4 観点別学習状況の評価の進め方

評価を進めるにあたっては、全ての生徒が「おおむね満足できる」水準（B評価）に到達することができるように、「学習改善につなげる評価」（●）を適切に実施することが大切である。特に、「おおむね満足できる」状況に達していない生徒がいる場合に、「学習改善につなげる評価」に基づいて、生徒の実態に合わせて適切な指導や助言を行った上で、「評定に用いる評価」（○）につなげることが大切である。

（1）知識・技能

「知識・技能」の評価については、「知識」に関する評価と「技能」に関する評価とに区別して捉えることができる。したがって、本事例においても「知識・技能」の評価を進めるにあたって、「現代社会の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論を理解している」状況を評価する場面と「学習場面に即して、情報を収集する技能、情報を読み取る技能、情報をまとめる技能」について評価する場面において展開例を作成している。

例えば、本事例の第一次では、「よりよい社会の実現に向けた選挙へのかかわり方」を現代社会の諸課題と捉え、この課題を考察し吟味するための手がかりとなる概念や理論を理解している状況を「我が国の地方自治制度について、具体的な資料に基づいて理解を深めている。」という観点で評価し、学習場面に即して、情報を収集し、読み取り、まとめる技能を「地方自治制度に関わる諸資料から、考察に必要な情報を適切かつ効果的に読み取り、まとめることができている。」という観点で評価している。そして、これら2つの「学習改善につなげる評価」の実施した上で、「おおむね満足できる」水準に達していない生徒に適切な指導や助言を行い、第一次終末の「評定に用いる評価」につなげるように評価計画を作成している。

（2）思考・判断・表現

「思考・判断・表現」の評価については、現代社会の諸課題について、事実を基に、概念などを活用して、多面的・多角的に考察したり、解決にむけて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている状況を評価するとされている。すなわち、取り上げた現代社会の諸課題について、その意味や意義を見いだすことや、社会に見られる課題を把握して、その解決にむけて構想したことを、生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価するものである。

例えば、本事例の第二次では、「国際社会の具体的課題の解決にむけて、国家間で合意を形成すること」を課題として設定し、この問いに対する生徒の発表内容等を「課題とその解決策について、他者と協働して考察・構想し、論拠をもって自らの意見を表現できている。」という観点で評価することで、考察・構想された内容が事実を基に、既習概念等を活用して、多面的に考察したり構想したりしているかどうかを把握し、第二次終末の「評定に用いる評価」につなげることを意図している。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

本項目についての評価は、主として政治についての諸学習の中で「自らの学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度」と「よりよい社会の実現にむけて、現代における政治的諸課題を主体的に解決しようとする態度」の2つの観点により評価を実施する。特に、後者については生徒が自分事として日常的に捉えることが出来る課題を設定することによって、単元の学習が終わった後でも、生徒が日常的に設定した課題の解決にむけて主体的に行動できる素地をつくれたかどうかを規準として評価を行う。

本事例においては、「自らの学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度」について、単元の導入で立てた学習の見通しを踏まえて、単元の最初と単元の終末における「単元を貫く問い」に対する生徒の記述内容の変化を見取ることで評価を行う。また、「よりよい社会の実現にむけて、現代における政治的諸課題を主体的に解決しようとする態度」については、第三次のはじめに選択したテーマが、自らの生活に密接に関わっているかどうかという視点で「学習改善につなげる評価」を実施した上で、単元のまとめにおいて作成させるにおいて、記述の内容から単元の学習が終わった後でも、生徒が日常的に設定した課題の解決にむけて主体的に行動できる素地をつくれたかどうかを規準として「評定に用いる評価」を実施する。

5 ワークシートを用いた知識・技能に関する評価について

本事例の第一次は、地方自治や選挙制度を題材として、具体的な主題を他者と協働して追究したり解決したりする活動を通して、よりよい社会の実現にむけて、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解するとともに、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けることを目的としたものである。

具体的には、「よりよい社会の実現にむけて、私たちはどのように選挙に関わるべきだろうか。」という主題を設定して、グループワークなどを通して他者と協働して主題を追究する活動を通して、課題を考察するための手がかりとなる概念や理論を理解した上で、よりよい社会の実現にむけて、主体的に社会に関わろうとする態度や、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けさせることを意図したものである。

上記の内容を評価するにあたって、本事例ではワークシートを活用することを想定している。ワークシート(別添資料1)では、第一次の1時間目「憲法規定を含む地方自治に関する諸資料から、必要な情報を読み取って考察し、地方自治の制度や住民の政治参加のあり方、現状と課題について理解を深める」についての知識・技能の評価規準である①「我が国の地方自治制度について、具体的な資料に基づいて理解を深めている」および②「地方自治制度に関わる諸資料から、考察に必要な情報を適切かつ効果的に読み取り、まとめることができる」について、ワークシートに以下のような項目を設けて評価することを想定している。

ワークシートの項目例(別添資料1より抜粋)

◎我が国の地方自治とはどのようなものか。keywordを3つ挙げて、根拠となる資料を示しながらその内容についてわかりやすく説明して下さい。

keyword 1 : _____

keyword についての説明

説明の根拠となる資料(出典) : _____ (_____)

その資料を選んだ理由 : _____

また、本事例における「おおむね満足できる」状況(B評価)を以下の通り設定する。

「おおむね満足できる」状況（B評価）の例

- ・具体的な資料に基づいて、我が国の地方自治制度を個別的事実的知識にとどまることなく、概念や理論として身に付けている。
- ・地方自治に関わる諸資料から、考察に必要な客観的で説得力のある情報を、複数の資料を照らし合わせながら収集できている。

知識・技能の評価規準である①「我が国の地方自治制度について、具体的な資料に基づいて理解を深めている」については、個別具体的な事実についての理解だけでなく、それらを踏まえた上で、地方自治制度についての概念や理論として知識を身につけられているかどうかをB評価の基準として設定している。したがって、ワークシートにおける生徒の記述内容を読み取った際に、地方自治制度についての理解が、授業中に提示された具体例の理解のみにとどまっている場合には、「おおむね満足できる」状況を達成せずにC評価となることから、生徒の実態に応じて、概念的理解へと発展させられるような指導や助言を行い、B評価に達することができるように配慮することが必要である。

また、②「地方自治制度に関わる諸資料から、考察に必要な情報を適切かつ効果的に読み取り、まとめることができている」については、特に「適切かつ効果的に」という部分について、情報の出典や発信者の立場や意図なども踏まえ、その信頼性や客観性、真偽などについて適切に吟味している過程を評価することとしている。したがって、例えば自身の意見との整合性だけを重視して資料を読み取っていたり、収集したり、まとめたりしている場合には、「おおむね満足できる」状況を達成せずにC評価となることから、資料の客観性や信頼性を検討できるように、生徒の実態に合わせて指導や助言を行うことが大切である。

なお、「十分満足できる」状況（A評価）については、生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときであり、多様な状況が考えられる。

6 主体的に学習に取り組む態度の評価について

本事例における「主体的に学習に取り組む態度」の評価にあたっては、主に毎時間実施する生徒の「自己評価シート」における記述内容の変遷から「自らの学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度」について評価を行い、また、第三次の導入部分において生徒が選択したSDGsのテーマについての記述内容が自らの生活に密接に関わっているかどうかという観点で「よりよい社会の実現にむけて、現代における政治的諸課題を主体的に解決しようとする態度」についての評価を行う。

このうち、「自らの学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度」については、「自己評価シート」（別添資料2）を用いて、単元の最初と終末で、「単元を貫く問い」に対する生徒の答えがどのように変化したかを見取ることで「評定に用いる評価」を実施するが、それ以外においても、毎時間の授業の終わりに実施する自己評価の記述内容から、継続的に「学習改善につなげる評価」を行うことを想定している。

自己評価シートにおける評価例（資料2より抜粋）

単元の導入（年 月 日） よりよい社会をつくるために、私たちは政治的主体としてどのように社会にかかわるべきだろうか。 あなたの答え
↓
第一次～第三次の振り返り項目
単元のまとめ（年 月 日） よりよい社会をつくるために、私たちは政治的主体としてどのように社会にかかわるべきだろうか。 あなたの答え
・単元の学習テーマについての理解度 【 A ・ B ・ C 】 ・知識や資料をうまく活用できた 【 A ・ B ・ C 】 ・自分の意見を根拠を持って表現できた 【 A ・ B ・ C 】 ・関心や意欲を持って学習に取り組むことができた 【 A ・ B ・ C 】

例えば、上掲の評価シートにおいて、単元の導入時点での単元を貫く問いに対する生徒の答えが現代社会の諸概念や諸課題にほとんど触れられずに記載されていたものが、単元のまとめの段階で、第一次から第三次までに学習した国内外の政治的な諸概念や諸課題に言及する形で変化していると判断される場合、その生徒について「おおむね満足できる」状況（B評価）と判断することが考えられる。

また、「よりよい社会の実現にむけて、現代における政治的諸課題を主体的に解決しようとする態度」についての評価は、第三次のテーマ選択の内容により「学習改善につなげる評価」を実施するが、当該評価において「おおむね満足できる」状況（B評価）を以下の通り設定する。

おおむね満足できる状況（B評価）の例

よりよい社会の実現にむけて、問い続けていくべき現代の諸課題を、生徒自身の日常と関連させて選択し、問い続けていく意義を見いだしている。

ここでは、SDGsのテーマ選択を、生徒自らの日常生活と関連させられているかどうかを評価のポイントとすることで、単元の学習が終わった後でも、生徒が日常的に設定した課題の解決にむけて主体的に行動できる素地をつくれたかどうかを判断することを想定している。したがって、例えばテーマの選択が自身の日常生活と何ら関係が無い場合や、選択理由の記述内容が自身の生活とは無関係のことである場合には、「おおむね満足できる」状況に達していないと判断されるため、生徒の実情に応じて、自身の生活との関わりに気づかせるような指導を行うことが必要である。

別添資料1 「知識・技能」の評価のためのワークシートの例

「公共」ワークシート No.01「地方自治」(年 月 日)

〇年〇組〇番 名前: _____

◎我が国の地方自治とはどのようなものか。keywordを3つ挙げて、根拠となる資料を示しながらその内容についてわかりやすく説明して下さい。

keyword 1 : _____

keyword についての説明

説明の根拠となる資料(出典): _____ (_____)

↳ その資料を選んだ理由: _____

keyword 2 : _____

keyword についての説明

説明の根拠となる資料(出典): _____ (_____)

↳ その資料を選んだ理由: _____

keyword 3 : _____

keyword についての説明

説明の根拠となる資料(出典): _____ (_____)

↳ その資料を選んだ理由: _____



◎我が国の地方自治制度とは、どのようなものですか。keywordや資料に基づいて説明して下さい。

別添資料2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のための自己評価シートの例

公共 「自己評価シート」

〇年〇組〇番 名前： _____

単元の導入 (年 月 日)

よりよい社会をつくるために、私たちは政治的主体としてどのように社会にかかわるべきだろうか。

あなたの答え

第一次の振り返り (年 月 日)

学びのテーマ： _____

(1) 第一次の問い：よりよい社会の実現にむけて、私たちはどのように選挙に関わるべきか。

(2) 自己評価

- ・ 今回の学習テーマについての理解度 【 A ・ B ・ C 】
- ・ 知識や資料をうまく活用できた 【 A ・ B ・ C 】
- ・ 自分の意見を根拠を持って表現できた 【 A ・ B ・ C 】
- ・ 関心や意欲を持って学習に取り組むことができた 【 A ・ B ・ C 】

(3) 学びの中での気づきや考えたことなど

第二次の振り返り (年 月 日)

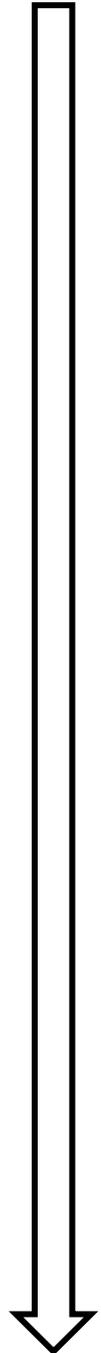
学びのテーマ： _____

(1) 第二次の問い：これからの国際社会をよりよくするために必要なことは何か。

(2) 自己評価

- ・ 今回の学習テーマについての理解度 【 A ・ B ・ C 】
- ・ 知識や資料をうまく活用できた 【 A ・ B ・ C 】
- ・ 自分の意見を根拠を持って表現できた 【 A ・ B ・ C 】
- ・ 関心や意欲を持って学習に取り組むことができた 【 A ・ B ・ C 】

(3) 学びの中での気づきや考えたことなど



第三次の振り返り (年 月 日)

学びのテーマ：

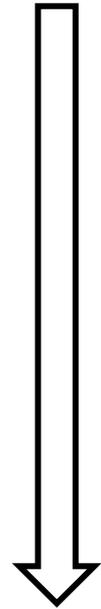
(1) 第三次の問い：SDG s の達成にむけて、私たちはどのように社会にかかわるべきか。

選択したSDG s のテーマ： _____

(2) 自己評価

- ・ 今回の学習テーマについての理解度 【 A ・ B ・ C 】
- ・ 知識や資料をうまく活用できた 【 A ・ B ・ C 】
- ・ 自分の意見を根拠を持って表現できた 【 A ・ B ・ C 】
- ・ 関心や意欲を持って学習に取り組むことができた 【 A ・ B ・ C 】

(3) 学びの中での気づきや考えたことなど



単元のまとめ (年 月 日)

よりよい社会をつくるために、私たちは政治的主体としてどのように社会にかかわるべきだろうか。

あなたの答え

- ・ 単元の学習テーマについての理解度 【 A ・ B ・ C 】
- ・ 知識や資料をうまく活用できた 【 A ・ B ・ C 】
- ・ 自分の意見を根拠を持って表現できた 【 A ・ B ・ C 】
- ・ 関心や意欲を持って学習に取り組むことができた 【 A ・ B ・ C 】

◎単元を振り返って、これからも考え続けていきたい現代の諸課題は何か。自分と社会との関わりを踏まえて理由とともに説明して下さい。

単元名
 持続可能な社会づくりの主体となる
 私たち

内容のまとめり
 C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち

1 単元の目標

持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述する。
- ・持続可能な社会づくりについて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

2 単元の評価規準

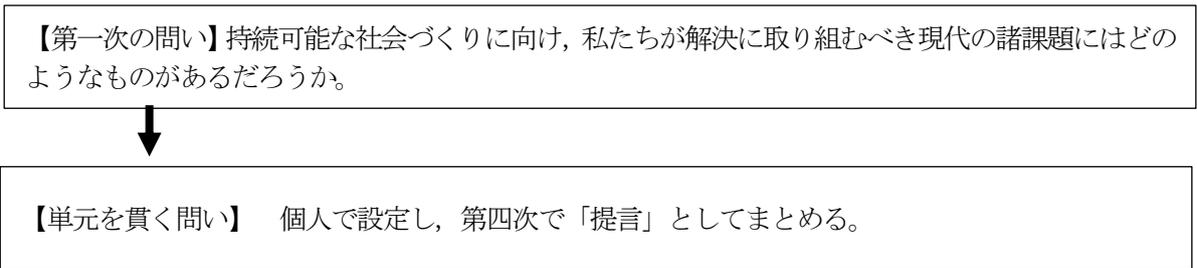
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に共同して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、根拠を基に自分の考えを説明、論述している。	・持続可能な社会づくりについて、よりよい社会づくりの実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

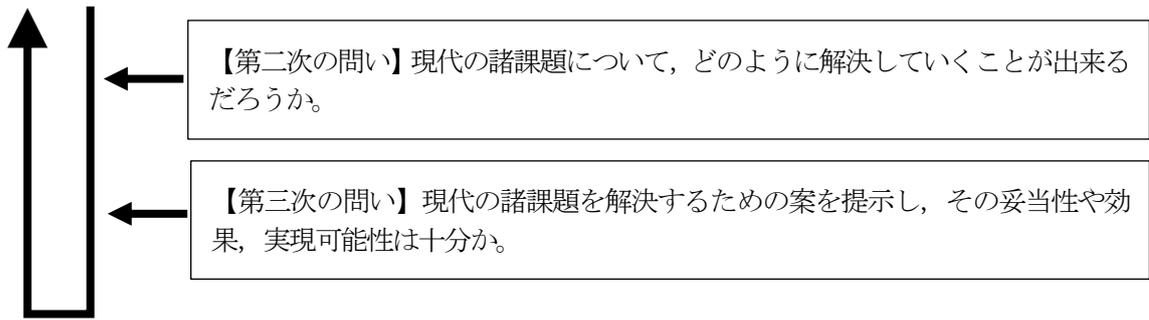
3 指導と評価の計画例①（10時間）

（1）単元の指導計画

- 第一次（課題の設定、情報の収集）・・・・・・・・・・・・・・・・（3時間）
 第二次（整理・分析）・・・・・・・・・・・・・・・・（3時間）
 第三次（まとめ・表現）・・・・・・・・・・・・・・・・（3時間）
 第四次（探究する学習の振り返り）・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）

（2）単元における問いの構造





(3) 指導と評価の展開例

○「評定に用いる評価」

●「学習改善につなげる評価」

次	主な学習活動 ◇学習活動の概要 問主発問 留 指導上の留意点	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第一次 3時間	【第一次のねらい】持続可能な社会づくりを担う主体となることに向けて、様々な現代の諸課題があることを確認した上で、考察したい自分の課題を設定する。				
	【第一次の問い】持続可能な社会づくりに向け、私たちが解決に取り組むべき現代の諸課題にはどのようなものがあるだろうか				
	◇これまでの「公共」の学習で取り上げた現代の諸課題について振り返り、参考にしながら自分が探求する課題を設定する		●		●地域の創造, よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きるという観点から課題を見出している。
問 (【第一次の問い】と同じ)			●	●単元の学習課題の解決に向けて、自分が設定した問いに対する答えを予想したり、解決すべき疑問を挙げたりする等、解決への見通しを立てている。	
留)・SDGs (持続可能な開発目標) のどの目標に注目するか、考えるよう助言する。					
・「公共」で学習した内容が独立したものでなく、各領域を横断し、自己の在り方生き方と関わるものになるよう助言する。					
【単元を貫く問い】※それぞれの生徒が設定した問い					
第二次 3時間	【第二次のねらい】現代の諸課題について、必要な情報を収集し、選択・判断の手がかりとなる考え方などを活用して、解決に必要なことについて考察、構想させる。				
	【第二次の問い】現代の諸課題について、どのように解決していくことが出来るだろうか。				
	◇文献やインターネットによる調査や現地調査、インタビュー調査、アンケート調査等を通して情報を収集,	●			●必要な情報を適切かつ効果的に収集し、社

	<p>整理し、自らが設定した問いについて、解決策等を、事実を基に考察、構想し分かりやすくまとめる。</p> <p>問 【第二次の問い】と同じ)</p> <p>留) 課題の解決策を考察、構想する際には、大項目Aで学習した選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用させる。</p> <p>留) 情報の収集に当たっては、インターネット等の情報手段の積極的な活用を図るとともに、情報モラルにも留意させる。</p> <p>留) ICT を活用するなどして生徒の問いを共有させ、追究する内容が似ている生徒が相談し合ったり、教え合ったりする等、協働して考察、構想できるよう工夫する。</p>			<p>会的な見方・考え方を総合的に働かせて読み取り、整理している。(発言、記述)</p> <p>● 選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原理などを活用しながら、課題の内容や解決策等について事実を基に多面的・多角的に考察、構想し、提言案をまとめている。(ワークシート)</p>
第三次	<p>【第三次のねらい】 現代の諸課題の解決策について、調べた内容を基に発表させ、その効果や妥当性、実現可能性などについて他者と議論することで再検討させる。</p>			
	<p>3時間</p> <p>◇中間発表会を実施し、各自が設定した問いやその解決策についてグループ内で発表し、議論する。次に、各グループの代表生徒による発表会を学級単位で行う。</p> <p>問 【第三次の問い】と同じ)</p> <p>留) ・各自の発表内容について、提言の妥当性や効果、実現可能性といった点から質問・意見を出し合い、最終的な提言を考察、構想する際のヒントとなるようにする。</p> <p>・発表に当たっては、ICT の積極的な活用を図り、分かりやすく効果的な発表となるよう指導する。</p>		<p>●</p> <p>●それぞれの提言案をグループで議論しながら事実を基にその妥当性や効果実現可能性などを指標にして、協働して考察、構想している。(発言)</p> <p>●</p> <p>●グループでの議論を通して、自身の提言案の修正の方向性や、提言案改善に有効であった友達の意見や助言などを見いだしている。(ワークシート)</p>	
第四次	<p>【第四次のねらい】 現代の諸課題の解決策について、他者との議論を踏まえてさらに考察、構想させる。</p>			
1時間	<p>【単元を貫く問い】 (個人で設定した問い)</p> <p>◇グループ内やクラスでの発表を踏まえ、自分の提言案を修正し、完成させる。</p>			
			○	○課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指

	<p>問 【単元を貫く問い】と同じ</p> <p>◇個人で単元の学習を振り返る。</p> <p>問 持続可能な社会づくりに向け、自分自身にできることは何だろうか。</p>			<p>標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。</p> <p>○ ○第一次に立てた見通しを踏まえて、学習への自身の関わりを振り返り、自分にとっての学習の意義を見いだしている。</p> <p>○ ○持続可能な社会づくりについて関心をもち、問いを見だし、その社会的意義や問いの解決に向けた自らの在り方について記述している。</p>
--	---	--	--	---

注：○や●が付されていない学習場面においても、生徒の学習状況を確認し、生徒の学習改善や教師の指導の改善に生かすことは大切である。

4 指導と評価の計画②（10時間）

単元を貫く問いを「持続可能な地域社会の在り方に関する問い」として教員が示す例を提示する。

（1）単元の計画

- 第一次 地域を分析する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（3時間）
- 第二次 地域の課題解決のための提言・・・・・・・・・・・・・・・・（4時間）
- 第三次 発表会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2時間）
- 第四次 探究する学習のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）

（2）単元における問いの構造

- 【単元を貫く問い】 地域の強みや弱みを踏まえた持続可能な地域社会の在り方とはどのようなものだろうか。
- 【第一次の問い】 私たちの住む地域の強み、弱みはどんなことだろうか。
- 【第二次の問い】 地域の抱える課題はどんなところだろうか。また、その課題をどのように解決していくことができるだろうか。
- 【第三次の問い】 地域課題の解決の提言について、その妥当性や効果、実現可能性は十分であるか。
- 【第四次の問い】 地域課題の解決のために私たちができることはどんなことだろうか。

（3）指導と評価の展開例

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

次	主な学習活動 ◇学習活動の概要 問主発問 留 指導上の留意点	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第一次	【第一次のねらい】持続可能な地域社会づくりを担う主体となることに向け、地域社会の現状についてSWOT分析を行い、特徴と取り巻く環境を分析する。				

3 時 間	<p>問 私たちの住む地域社会の強み、弱みはどんなことだろうか。</p> <p>◇文献や新聞、インターネットによる調査、現地調査等を通して様々情報を収集し、整理する。</p> <p>◇学校所在地又は自分の居住する自治体について情報収集し、SWOT分析を行う。</p>	●	○	<p>●必要な情報を適切かつ効果的に収集し、社会的な見方・考え方を働かせて読み取り、整理している。(記述)</p> <p>○強み、弱み、機会、脅威に分類し、適切に表現している。(ワークシート)</p>
第 二 次 4 時 間	<p>問 地域の抱える課題はどんなころだろうか。また、その課題をどのように解決していくことができるだろうか。</p> <p>◇地域社会の抱える課題を見出し、問いとして表現する。</p> <p>◇自ら設定した課題について、解決策を提言としてまとめる。</p> <p>留) 解決策を考察する際に地域の強みを生かしたり、弱みを克服したりする提案になるよう助言する。</p> <p>留) ICT機器を活用した発表に向けて資料の作成を行う。</p>	●	●	<p>●第一次で収集した情報を基に、地域社会の課題を考察し、表現している。(ワークシート)</p> <p>●幸福、正義、公正などに着目して、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理や第一次で行ったSWOT分析を活用して課題や解決策をまとめている。(発表・発表資料)</p>
第 三 次 2 時 間	<p>問 地域課題の解決の提言について、その妥当性や効果、実現可能性は十分であるか。</p> <p>◇作成した資料を使い、ICT機器を活用してグループ内で発表を行い、提言について議論する。</p> <p>留) 地域を取り巻く環境(機会、脅威)も踏まえて議論するように助言する。</p> <p>◇グループの発表のうち、より実現可能性の高い提言をした者が代表となり、グラス全体で発表する。</p>	●	●	<p>●他者の発表に対して、幸福、正義、公正などに着目して、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を基に意見を述べている。(発言)</p> <p>●議論等をとおして、自分の提言の修正の方向性を見いだしている。(発言)</p>

第 四 次 1 時 間	<p>【第四次のねらい】地域社会の課題の解決策について、他者との議論を踏まえて考察し、構想するとともに、提言の内容について、自身ができる具体的な行動を考える。</p>				
	<p>問 地域課題の解決のために私たちができることはどんなことだろうか。 ◇グループ内やクラスでの発表を踏まえ、自分の提言を修正し、完成させる。</p> <p>◇提言を実現するために、地域社会に対して自分ならば何ができるか考察し、説明する。</p>		○	○	<p>○地域を創造し、持続可能な地域社会を築くという観点から課題を見だし、その課題解決に向けて、他者と協働して考察したことや地域を取り巻く環境を踏まえて自分の考えを修正し、まとめている。(ワークシート)</p> <p>○持続可能な地域社会を築くために具体的方法をイメージし、積極的に社会参画しようとしている。(ワークシート)</p>

5 探究する活動における観点別学習状況の評価の進め方

(1) 思考・判断・表現

第一次～第三次で継続的に「学習改善につなげる評価」(●)を行い、必要な指導や助言を行った上で、第四次で「評定に用いる評価」(○)を行う。第一次～第三次の「学習改善につなげる評価」では、問いを設定したり、設定した問いの解決に向けて「社会的な見方・考え方」を総合的に働かせて考察し表現したりする場面において、生徒の話し合いの様子や自己評価シートの記述から見取り、認め励ますとともに必要に応じて適切な支援を行う。第四次の「評定に用いる評価」では、地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会や地域社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や【単元を貫く問い】(個人で設定した問い)【第四次のねらい】現代の諸課題の解決策について、他者との議論を踏まえてさらに考察、構想させる。また、単元の学習を振り返らせる。効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している状況の評価する。本単元では、単元の評価規準を学習活動に即して具体化し、次のように「おおむね満足できる」状況(B)を設定する。

「おおむね満足できる」状況(B)の例
 持続可能な社会づくりに向けて取り組むべき課題を見だし、他者からのアドバイスを受け止めながら、事実を基に、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用し、多面的・多角的に考察、構想しながら妥当性や効果、実現可能性などを指標にして論拠を基に提言を説明している。

すなわち、第四次で再検討、修正した提言において、「行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方」、「行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方」といった選択・判断の手掛かりとなる考え方、及び「人間の尊厳と平等」、「個人の尊重」、「民主主義」、「法の支配」、「自由・権利と責任・義務」等の公共的な空間における基本的原理などを活用して提言を練り上げ、「公共」の学習段階として、公共的な空間における基本的原理におおむね沿った提言ができていれば、「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。例えば、「少子高齢化や人口減少が進む中で、私たちは持続可能な社会保障の仕組みづくりにもどのように関わることができるか」という問いに対して、「財源の希少性」や「民主主義」等に着目して多面的・多角的に考察、構想し、公共的な空間における基本的原理におおむね沿った提言を作成していれば、「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。「おおむね満足できる」状況(B)に達していないと判断

した場合、個別指導で、取り組んでいる課題に即して着目すべき概念に気付かせたり、提言の具体的な修正点を分かりやすく指摘したりするなど、必要な指導、支援を行う。

「十分満足できる」状況（A）については、生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときであり、多様な状況が考えられる。

（２）主体的に学習に取り組む態度

「思考・判断・表現」の評価と同様に、第一次～第三次で継続的に「学習改善につなげる評価」を行い、必要な指導や助言を行った上で、第四次で「評定に用いる評価」を行い、記録に残す。第一次～第三次の「学習改善につなげる評価」では、問いの解決に向けて解決策を予想したり、大項目A及びBで学習した内容に着目したりするなど、解決への見通しを立てたり、それまでの学習を振り返ったりする場面において、生徒の話合いの様子や自己評価シートの記述から見取り、必要に応じて適切な支援を行う。第四次の「評定に用いる評価」では、持続可能な社会づくりについて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている状況の評価する。「主体的に学習に取り組む態度」については、「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」と「公共」の評価規準に位置付いている「現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度」について評価する。

①「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」

本単元では、単元の評価規準を学習活動に即して具体化し、次のように「おおむね満足できる」状況（B）を設定する。

「おおむね満足できる」状況（B）の例

持続可能な社会づくりについて、よりよい社会の実現を視野に、見通しを踏まえて学習への自身の関わりを振り返り、学習を通して自らの変容につながった学習活動を見いだしている。

すなわち、単元の学習を通して新たに理解したことやより理解が深まったこと、またできるようになったことにつながる学習活動を見いだすことができているならば「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。例えば、後掲の資料における、「主体的に学習に取り組む態度」に係るワークシートの記述として、単元の学習を振り返り、他の生徒からの助言や質問など、最終的な提言をまとめるに当たって自身の考えを広げたり深めたりするのに有効と考える学習活動と、なぜその学習活動が有効であるのかについて論述していれば、「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。「おおむね満足できる」状況（B）に達していないと判断した場合、考察、構想した提言案と最終的な提言の内容の違いを比較するよう助言したり、自らの考えがどのような学習活動によって深まりを見せたのかについて尋ねたりすることが考えられる。

②「現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度」

本単元では、単元の評価規準を学習活動に即して具体化し、次のように「おおむね満足できる」状況（B）を設定する。

「おおむね満足できる」状況（B）の例

持続可能な社会づくりについて、よりよい社会の実現を視野に、新たな現代の諸課題を見いだすとともに、その課題を解決する社会的意義や、課題の解決に向けた自らの在り方について具体的に記述している。

すなわち、単元の学習後も関心をもって自ら追究し続けたい、解決、改善を図っていききたい現代の諸課題を挙げ、その課題について人間としての在り方生き方、社会の在り方と結び付けてその課題を問い続けていくことの意義について記述していれば、「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。例えば、後掲の資料における、「主体的に学習に取り組む態度」に係るワークシートの記述として、少子高齢化や人口減少が進む中で個人や社会の在り方について新たな課題を見だし、その課題の解決が、将来世代も含めた人々の幸福と密接な関わりがあること、また、その課題解決の担い手である自分たちの世代に対して問題提起などの情報を発信したいなどを論述していれば、「おおむね満足できる」状況（B）に当たる。「おおむね満足できる状況」(B)に達していないと判断した場合、単元の学習を終えてこれからさらに調べたり考えたりしたいことはどのようなことか尋ねたり、自分や社会の在り方について考える上で、自分たちが

どのように関わっていけるかについて尋ねたりすることが考えられる。「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」及び「現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度」のいずれについても、「十分満足できる状況」(A)については、生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときであり、多様な状況が考えられる。

以上を踏まえ、「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」と「現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度」の記述が、いずれも「おおむね満足できる」状況(B)の場合、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を「おおむね満足できる」状況(B)とする。

資料1 「主体的に学習に取り組む態度」に係るワークシート(一部)

《単元のまとめ》

○単元の始めに立てた【単元を貫く問い】に対する解決の見通しを踏まえて、これまでの学習を振り返り、自分自身の考えを広げたり、深めたり、まとめたりする際に有効と考える学習活動はどのようなものでしたか。また、なぜ、そのような学習活動が有効だと考えますか。

○単元の学習を振り返り、これからも考え続けたい現代の諸課題は何ですか。また、自分や社会との関わりも踏まえて、考え続けたい理由を説明してみよう。

《「おおむね満足できる」状況(B)の例》

私は人口減少が進む地域社会の創生について考え続けていきたい。

人口が減少する地域社会において地域を活性化するためには、企業を誘致して工場を建設し、雇用の場を確保することが良いと考えていた。しかし、工場建設等の開発によって環境が改変し、産業の盛衰によって企業が工場を閉鎖、縮小することが考えられるなど、持続可能な地域社会の在り方という視点からは単純に企業誘致をするだけでは不十分である。人口減少を前提とした地域社会の創生のためには、地域にある資源を見だし、その強みを生かした政策を実施していくことである。

具体的には、〇〇の生産が盛んな地域性を踏まえ、農産物のブランド化や第6次産業化によって、付加価値の高い製品を生産することを地域社会の創生の方法として考えており、行政にも提案していきたい。

《「努力を要する」状況(C)の例》

私は人口減少を緩和して地域を活性化するには、若い世代の人口の増加が不可欠であるため、保育所の無償化や子どもの医療の無償化など、子育て世代のための政策を充実させることが必要である。

(一つの観点からしか考えられておらず、ここまでの学習によって考えが深められていない。)

→ 「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」は、内容のA及びBの学習で養った資質・能力を活用して実施することから、最後の評価がCとなるということは、内容のAやBを学習した際の教員の指導の改善や生徒の学習の改善が不十分であったと考えられる(このような事態は避けたい)。その点も踏まえ、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、現実社会の諸課題を多面的・多角的に探究し、自分自身が課題に対してどのように向きあうかを考えるよう内容のAやBの学習の一部を指導し直し、修正したワークシートの提出を求めるなど、追加で指導をすることも考えられる。

資料2 自身の取り組みを振り返る, 自己評価シート

公共 自己評価シート ①

年 組 番 氏名

学習日 /	第1時	今日の主題	
	○授業への取り組み, 姿勢		(A ・ B ・ C)
	○考えをわかりやすくまとめ, 表現することはできたか。		(A ・ B ・ C)
	○本日の学習で気づいたこと, 考えたこと, 学んだこと		

学習日 /	第2時	今日の主題	
	○授業への取り組み, 姿勢		(A ・ B ・ C)
	○考えをわかりやすくまとめ, 表現することはできたか。		(A ・ B ・ C)
	○本日の学習で気づいたこと, 考えたこと, 学んだこと		

学習日 /	第3時	今日の主題	
	○授業への取り組み, 姿勢		(A ・ B ・ C)
	○考えをわかりやすくまとめ, 表現することはできたか。		(A ・ B ・ C)
	○本日の学習で気づいたこと, 考えたこと, 学んだこと		

学習日 /	第4時	今日の主題	
	○授業への取り組み, 姿勢		(A ・ B ・ C)
	○考えをわかりやすくまとめ, 表現することはできたか。		(A ・ B ・ C)
	○本日の学習で気づいたこと, 考えたこと, 学んだこと		

学習日 /	第5時	今日の主題	
	○授業への取り組み, 姿勢		(A ・ B ・ C)
	○考えをわかりやすくまとめ, 表現することはできたか。		(A ・ B ・ C)
	○本日の学習で気づいたこと, 考えたこと, 学んだこと		

【公民部会作成委員】

上園	知明	宮城県教育庁高校教育課指導主事
櫻井	知大	宮城県水産高等学校教頭
佐藤	和哉	宮城県仙台第二高等学校教諭
佐藤	徹	宮城県宮城広瀬高等学校教諭
高橋	雄	仙台市立仙台青陵中等教育学校教諭